JAPAN HOUSE
LONDON

報道関係者 各位

2023 年 5 月 8 日（訂正）

ジャパン・ハウス ロンドン

『WAVE: Currents in Japanese Graphic Arts』展

世代とジャンルを超えた現代日本人アーティストたちによる
多種多彩なグラフィックアート作品が一堂に集結

2023 年 7 月 6 日（木） – 2023 年 10 月 22（日）
ジャパン・ハウス ロンドン地下ギャラリー／1 階ショーウィンドウ・展示ブース

田名網 敬一 《Shōnen Tiger 01》

- 世代、ジャンル、スタイル、メディアといったあらゆる垣根を超えた、60 組の現代日本人アーティストたちによる多種多彩な作品を一挙に公開。海外ではあまり知られていない日本における多様なアートシーンを紹介します。
- 東京で 2018 年から毎年開催されている『WAVE TOKYO』展をベースとしており、本展も東京と同じくヒロ杉山と高橋キンタローが企画を手掛けています。
- ジャパン・ハウス巡回企画展としてロサンゼルス、サンパウロに続きロンドンで開催される本展では、同巡回展初参加となる新進アーティスト 5 名の作品も英国初公開されます。
- イラストレーション業界における巨匠から新たな才能まで、あらゆるスタイルやバックグランドを持つ、年齢は 23 歳から 89 歳までと、幅広い世代のアーティスト陣が集結します。
- 一般公開に先立ち、プレス向け内覧会を 2023 年 7 月 5 日（水）9:00〜12:00 に開催いたします。詳細は改めてご案内いたします。
- 広報用画像は、こちらからダウンロードいただけます。

ジャパン・ハウス ロンドンは、2023年7月6日（木）から10月22日（日）まで、『WAVE: Currents in Japanese Graphic Arts』展を開催します。英国初となる本展では、広告やエディトリアル、絵本、アニメーション、ポスターまでジャンルの枠や世代を超えた現代日本人アーティスト陣による多種多彩な作品を通して、進化し続ける日本の2Dメディアアートの潮流や未来の可能性を探ります。本展のキュレーションを手掛けるアーティストのヒロ杉山とイラストレーターの高橋キンタローの作品含め、日本で最も優れたイラストレーターとグラフィックアーティスト60組の作品を一堂に展示します。作品の多くは英国初公開となります。

本展は、2018年から2022年まで5回にわたり、東京千代田区にある民設民営のアートセンター「アーツ千代田3331」（現在閉館中）で、ヒロ杉山と高橋キンタローのキュレーションにより、100名以上の日本を代表するアーティスト陣による作品が紹介され、グラフィックアートの大規模展として成功を収めた『WAVE TOKYO』展をベースにしています。本展は、ジャパン・ハウス巡回企画展としてロサンゼルス、サンパウロに続きロンドンで開催されます。ロンドンで開催される本展の参加アーティスト60組のうち、宇都宮なお、角田麻有、加藤崇亮、中島友太、矢野恵司の5名の新進アーティストはジャパン・ハウス巡回展においてロンドンが初参加となります。

世代を超えたアーティスト陣

1980年代、印刷技術の進化とともにイラストレーションの商業化、大衆化が進み、テレビや雑誌、広告メディアの黄金時代を迎え、日本のイラストレーション界に大きな「波（WAVE）」をもたらしました。本展では、そんな流行の波の中で登場し現代に至り活躍し続けているベテランアーティストから若き才能まで、その年齢は23歳から89歳までと、幅広い世代のアーティスト陣による作品の数々を紹介します。日本を代表するイラストレーターとしては、1960年代から活躍し、戦争や夢、ポップカルチャーをモチーフにしたカラフルな作風で知られるポップアートの先駆者である田名網敬一（1936年生まれ）や、「ヘタうま」という表現スタイルのパイオニアである湯村輝彦（1942年生まれ）などの作品を紹介。また、メディアアートの未来を担う新進気鋭のアーティストである、スーパーリアリズムで有名な画家 雪下まゆ（1995年生まれ）や友沢こたお（1999年生まれ）の有機的なハイパーリアリズム作品も紹介します。

ジャンルを超えた多種多彩な作品群

本展で展示する作品は、ヘタうまの手法を用いたイラストレーションやポップアート、フォトリアリズムなど、さまざまなジャンルやスタイルが混在しています。また、アーティスト自体も、イラストレーター、現役のコマーシャルアーティスト、画家など実にさまざまです。しかし本展では、あえて作品をジャンルやスタイルごとに分類せずに、鑑賞する方の自由な感性や視点を軸に、作品そのものが生み出す衝動やアーティストたちの声や思いなどを感覚的に体感できるように、一つの展示空間に

多様な作品を混在させて展示するという画期的なキュレーションが行われました。会場では、俳優の浅野忠信の作品と、日本でベストセラーを誇る絵本を手掛けた夫婦ユニット tupera tupera（ツペラ ツペラ）の作品が隣り合わせに展示されるなど、日本のイラストレーションとグラフィックアートの多様性を体験できる展示構成となっています。

ヘタうま

「ヘタうま」ブームを生み出した元祖ヘタうま漫画《ペンギンごはん（原作：糸井重里、作画：湯村輝彦》が、多くの鬼才を輩出した伝説的アンダーグラウンド系月刊誌「ガロ」にて 1976 年から連載され、日本のイラストレーション界において「ヘタうま」という新しい表現スタイルが広まったきっかけとなりました。「ヘタうま」とは、一見すると素人の落書きのような下手な絵だが、実はその下手さは意図的に計算されたものであり、その下手さが逆に個性や味となり絶妙な魅力がある絵を意味しています。湯村輝彦が提唱したこの「ヘタ（だけど）うま（い)」スタイルは、やがて雑誌や漫画、広告ポスターといった印刷メディアで展開され大衆に広く認知されるようになり、新世代のグラフィックアーティストたちの作品に大きな影響と新たな芸術的価値を与えました。

「本展では、驚くほど多様で無秩序な日本におけるイラストレーションとグラフィックアートの世界とは何かを探ります。特に興味深いのは、1970 年代から 80 年代にかけて提唱された「ヘタうま」というアンダーグラウンドな概念により、「美」と「醜」という既存概念を打ち破り、アートそのものの定義とアート界のヒエラルキー構造に挑戦をし、新たな表現スタイルを確立したのです。」

―――サイモン・ライト（ジャパン・ハウス ロンドン企画局長）

「1970 年代から 80 年代の日本のイラストレーションの世界で起きた最も大きなムーブメント、それは「ヘタうま」でした。「ヘタうま」とは何か？それは一人のイラストレータが提案した一つの概念でした。その概念は多くのクリエーターに影響を与えました。それが現在の日本のグラフィックアートにも多大なる影響を与えています。そんな日本のグラフィックアートのリアルな現状をこの『WAVE』展で楽しんでいただきたいです。」

――― ヒロ杉山（本展の企画者、参加作家）

「領域や世代を自由に行き来する日本のメディアアートの創作エッセンスの現在、そして未来。『WAVE』展にようこそ。」

――― 高橋キンタロー（本展の企画者、参加作家）

【開催概要】

展覧会名　:　『WAVE: Currents in Japanese Graphic Arts』展
会　期 :　2023 年 7 月 6 日（木）– 2023 年 10 月 22 日（日）
場　所 :　ジャパン・ハウス ロンドン（101-111 Kensington High Street, London, W8 5SA）
時　間 : 月曜日〜土曜日｜午前 10 時〜午後 8 時
　　　　日曜日・祝日｜午後 12 時〜午後 6 時
入　場 :　無料

主　催 : ジャパン・ハウス ロンドン
企　画 : ヒロ杉山、高橋キンタロー
会場デザイン : エンライトメント
グラフィックデザイン : 吉田真由（エンライトメント）

【出展アーティスト】*50 音順
浅野忠信　網中いづる　荒井良二　あわい　石黒亜矢子　一乗ひかる　伊藤桂司　牛木匡憲
宇都宮なお　宇野亞喜良　瓜生太郎　AC 部　榎本マリコ　沖冲.　角田麻有　影山徹　加藤崇亮
河村康輔　川元陽子　薬指ささく　くるはらきみ　サイトウユウスケ　笹部紀成　ジェニーカオリ
七戸優　ジュン・オソン　しりあがり寿　スージー甘金　スガミカ　須川まきこ　空山基　高木真希人
高橋キンタロー　竹井千佳　田名網敬一　谷口広樹　チカツタケオ　都築まゆ美
tupera tupera　（ツペラ ツペラ）　寺田克也　友沢こたお　中島友太　永井博　長場雄　花井祐介
早川モトヒロ　平井豊果　ヒロ杉山　Face Oka　牧かほり　水野健一郎　本秀康　森口裕二　矢野恵司
山口はるみ　雪下まゆ　湯村輝彦　横山裕一　吉岡里奈　吉實恵

【ヒロ杉山について】

アーティスト、アートディレクター。 1997 年にヒロ杉山を中心に、中島友太、吉田真由、角田麻有からなるクリエイティブユニット「エンライトメント」を結成。ファインアートの世界で国内外の展覧会で作品を発表する一方、フリーペーパーやアートブックの出版、展覧会のキュレーションなども行い、グラフィックデザイン、広告など幅広いジャンルで独創的な作品を発表しつづけている。さらに PV 制作や VJ などの映像分野での評価も非常に高く、平面だけではなく立体作品から空間演出も手掛け、幅広い創作活動を展開している。
VJ としては 1994 年より活動を開始。国内外問わずビッグ・アーティストと共演し、海外のパーティ、ビッグフェス、アート・ショウにも数多く参加している。近年では、m-flo『COSMICOLOR』のツアーVJ や、大沢伸一『THE ONE』のツアーVJ として参加。安室奈美恵、BOA、MEG などへライブ映像を提供している。現場の LIVE 感や空気感を瞬時にダイレクトにフロアに反映することを重視するプレイスタイルで数多くのフロアに視覚的グルーヴを生み出し続けている。

JAPAN HOUSE
LONDON

【高橋キンタローについて】

イラストレーター、アートディレクター。多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業、以後フリー。広告、CM、ディスプレー、ファッション等各種イラストレーションの他、子供向けアニメーションなど。 80〜90 年代には HIT STUDIO 名義で宝島をはじめ各種カルチャー誌やファッション誌の AD も担当。イベントや展示のキュレーション、出版企画も続けている。各種海外ミュージシャンのコンサート企画にも参画、自身もアート系ノイズバンド OBANDOS のメンバーにて各地のイベントに出演。
最近では WAVE 展 2018〜2022（3331 Arts Chiyoda）の企画構成のほか、画集「70 CREATOR'S SEVEN」（玄光社刊）の監修とパルコミュージアムでの同展監修、阪急うめだでの「CONTEMPORARY CHIC」展企画ディレクションなどを手がける。

【ジャパン・ハウスについて】

ジャパン・ハウスは、日本の多様な魅力や政策・取組・立場を発信することにより、日本への理解と共感の裾野を広げることを目的に、外務省により世界の 3 都市（サンパウロ・ロンドン・ロサンゼルス）に設置された対外発信拠点です。

ジャパン・ハウス ロンドンは、日本文化への関心が高まる欧州の拠点として、ロンドン市内の文化的、商業的建造物が多く所在するエリアの目抜き通りケンジントン・ハイストリートに 2018 年 6 月に開館しました。アールデコ調の歴史的建造物の中の 3 フロアにわたり、展示ギャラリー、多目的スペース、ライブラリー、レストラン、カフェ、ショップを備えた複合施設として、アート、デザイン、食、建築、テクノロジーなど日本の多様な魅力を通して、真の日本との出会いを現地の人々に提供しています。

公式ウェブサイト

Facebook

Instagram

Twitter

ニュースレターへの登録

【本展に関するお問い合わせ先】

ジャパン・ハウス ロンドン事務局 Marketing & Communications 課
担当：飛騨 香生里
E-mail：Kaori.Hida@japanhouselondon.uk